



リレーエッセイ

ハードルを越えて

たねだ ちひろ 37
鹿児島県中途失聴者・難聴者協会副会長 種子田 千博さん
(霧島市)

私は30歳のとき原因不明により耳が聞こえなくなりました。残念ながら中途失聴者・難聴者は世間での認知度が低く、私は話すことができるので「聞こえません」と伝えても理解されないこともあります。また、聴覚障害者は見た目では障害が分かりづらいため、日常生活において不安を抱えている人が多いのが現状ですが、個々人で「聞こえ」の程度が異なることにより、その人にとって最適な情報を得たり、コミュニケーションを図るためにさまざまな方法があることは朗報だと思います。

数年前に中途失聴者・難聴者協会の存在を知り、手話を使わない筆談での会話にびっくりしたことを今でも覚えています。また、私たち中途失聴者・難聴者には欠かせない要約筆記との出会いもありました。要約筆記者が話の内容を要約して文字にすることで、私たちは話の内容を理解できるのです。今は手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者合わせて40数名で活動しています。「要約筆記者養成講座」が開催されていますが、鹿児島市内の方が多いので、各市町村にもっと要約筆記者が育つことを願っています。

私が副会長を務める鹿児島県中途失聴者・難聴者協会では、毎月1回開かれる例会で、会員の相互親睦を図るため、料理教室やバス研修などを行っていましたが、コロナ禍の影響により開催が難しくなりました。一日でも早く元の状態に戻ってほしいというのが、今の一番の願いです。

妻も事務局長として活動していますが、この協会に入会するまで「耳マークカード」の存在を知らず、その必要性を実感している一人です。耳マークが設置されていると、思いやりや気遣いを感じ、とても嬉しくなるそうです。鹿児島県内の市町村の福祉課や病院、銀行などに、もっと「耳マーク」が設置されてほしい、と妻とともに願っています。そして、一人で不安を抱え込まないで、同じ障害を持っている仲間がいる、この協会があることを知ってほしい。これからも中途失聴者・難聴者への理解不足をなくすために行政の協力を得ながら活動の輪を広げ、私たちの耳の代わりをしてくれる要約筆記も広めていければと考えています。



簡単な筆談が出来るよう作られた筆談ボードは、妻の成美(なるみ)さんの手づくり



カラフルな筆談ボードをはじめ、耳マークバッジや用件カードを身につけていることで安心して会話出来ます



耳マーク

【連絡先】
鹿児島県中途失聴者・難聴者協会
FAX 0995-46-8966

